

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	若者対象コース		
事業名	産学官連携によるケアマインドを持った若者の人材育成プログラムの開発		
法人名	学校法人コア学園		
学校名	唐津ビジネスカレッジ		
代表者	理事長 門田 章	担当者 連絡先	校長 木原 厚二 Tel 0955-77-1771
1. 事業の目的			
<p>今、我が国は経済環境の急激な悪化で、雇用率の低下が続いている。一方、人手不足の続いている介護業界に就く若者は、年々減っている現状がある。核家族化が進む現代、多くの若者が老人・障害者や死に接する機会が少ないまま育ってきている。実体験のないまま、マスコミから得られる情報から、労働条件の厳しさだけを見て、介護に進む若者の機会を失わせているのではないだろうか。そこで、当事業の目的は産（介護事業所）学官が連携し、若者の生き甲斐を含め、適性・能力のミスマッチを解消するために、「真に介護がわかる人材育成プログラム」を開発することにある。また、介護業界は、歴史も浅く、介護のすばらしさを伝える人がいたとしても研修の機会が少なく、未経験な若者を将来に渡って育てるためのキャリア教育の仕組みも十分とは言えない。労働条件だけを問題にするのではなく、キャリア教育の必要性など、介護職が敬遠されている原因や求められている介護者のニーズを調査し、介護職の将来像を求めたい。そして、ニーズ調査で得られた結果から、必要とされる介護、ICT、コミュニケーション能力、一般常識等の知識学習に加え、ワークショップ、介護実習等の体験学習を取り入れたカリキュラム、シラバスを作成し、適正な教材、時間、講師等を設定し、人材育成プログラムを開発する。特に力を入れたいのは、介護実習による体験学習を取り入れ、人とのふれあいを通し、命の大切さ、感動する喜び、感謝の心、思いやりの心を実感することで「ケアマインドのわかる若者」を人材育成の中心に置く。この人材育成プログラムを元に、若者を対象に公募し、実証講座を実施し、受講生のアンケート結果、就職状況、研究発表等の成果結果は発表会や報告書配布という形で広く振興を図る。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>必要とされる介護、ICT、コミュニケーション能力、一般常識等の知識学習に加え、ワークショップ、介護実習等の体験学習を取り入れたカリキュラム、シラバスを作成し、適正な教材、時間、講師等を設定し、人材育成プログラムを開発した。特に力を入れたのは、介護実習による体験学習を取り入れ、人とのふれあいを通し、命の大切さ、感動する喜び、感謝の心、思いやりの心を実感することで「ケアマインドのわかる若者」を人材育成の中心に置いた。</p>			

- 講座名 ITとケアマインドを持った若者の人材育成講座
- 総授業時間数 学科（133時間）実技（419時間）総時間552時間
- 開設期間 平成21年9月1日～平成22年1月29日 5ヶ月

1) 科目

- ・介護専門科目：介護実務、介護演習、介護実習
 - ・ICT専門科目：Word、Excel、PowerPoint、インターネット、Web作成及びICT利活用
 - ・一般科目：ビジネス能力、ホスピタリティマインド・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、就職対策・指導。
 - ・アプローチ科目：現場の第一線で活躍されている方を講師に迎え、「介護分野の現状と将来」、「死について」「老人について」「必要とされる介護能力」等の講話、介護施設見学・事前介護実習による指導
 - ・卒業研究：日々の介護日記作成と総仕上げに学習や介護実習を通して得られた経験から研究成果を発表する。
 - ・キャリアカウンセリング：自己啓発目標と就業目標を設定し、就職達成に導く。
- 2) 資格試験 ホームヘルパー2級、日商PC検定、Webクリエイター能力認定、ビジネス能力検定
- 3) 成果物 資格取得状況報告書、調査資料報告書、受講生のアンケート、成果発表時の評価報告書、研究成果（発表資料）

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

受講者募集に当たっては、主に下記の方法を用いて行った。

1) 受講生の募集方法

新聞、折込広告、ポスター掲示による一般公募

- ・新聞広告（佐賀新聞2009年8月16日 1回）
- ・折込広告（せんでん虫 2009年8月7日、8月21日2回）
- ・ポスター掲示（市役所、ハローワーク等）

応募期間 7月後半～8月26日

2) 受講生の選抜方法・選考経過

- ・応募数 13人

定員10人のところ、13人の応募があったため、下記の方法で選考試験を行った。

- ・説明会及び選考会の実施

平成21年8月27日

- ・説明会 9:00～ 9:20
- ・適性検査（アンケート） 9:20～ 9:40
- ・面接 9:40～12:00（1人ずつ）
- ・選考会議

上記選抜試験の結果を踏まえ、総合的に判断した結果、10人を選抜した。合格者には当日中（8月27日）に試験結果を通知したが、後になって4人の辞退があり、結果的に6名が入校を果たした。

辞退の理由は、2人は就職が内定したためによる。残り2人はITの授業に関心が高く、介護の授業に関心がなかったためと思われる。

<p>③受講者の状況</p>
<p>受講者10人の内訳は下記の通りである。 男性2人、女性4人。 年齢層は20代4人、30代2人 いずれも受講開始時点では定職に就いておらず、子育て中の母が3人の他、アルバイトや親元で生活している人が3人であった。</p>
<p>④受講者の意識調査等</p>
<p>感想文やアンケートによる総合的な受講者の満足度は下記の通り、好評であった。 大変満足：4人（67%） やや満足：2人（33%）</p>
<p>⑤受講後の状況（修了者数・就職率）</p>
<p>受講者6人中、全員が規定の出席時間数に達したため、学校独自の修了書を交付した。修了者のすべてが就職希望者であったが、就職活動を行い、1人が就職し、3人が就職活動中であり、残り2人はさらなるスキルアップのため、ITビジネス科を受講中（進学）である。</p>
<p>3. 事業の評価に関する項目</p>
<p>①当初目的の達成状況</p>
<p>受講者全員が講座の内容に満足しており、講座の内容は当初の目的を達成した。しかし、就職分野で介護を選んだ3人は家庭の事情で、日曜日が休日の介護施設は限られ、就職に難航している。</p>
<p>②事業の成果及び改善点</p>
<p>事業の成果について、以下のとおりである。</p> <p>1) 資格取得 実証講座「ケアマインドを持った若者の人材育成講座」は、ケアマインドの習得として、ホームヘルパー2級過程を学び、受講生6名全員が同資格を取得した。 また、IT分野では、学力達成レベルのマイルストーンとして資格取得試験を実施した。このことで受講者6名は意欲的に資格取得にチャレンジし、日商PC検定（文書作成）3級合格5名、Webクリエイター能力認定試験上級合格2名、ビジネス能力検定2級合格4名など、果敢に資格取得に挑みながらITの技能及びケアマインドを身に付けた。</p> <p>2) 進路（就職） 現在、修了生6名の就職状況は1名が就職を果たし、3名が現在就職活動中の他2名は学び（進学）直した。成果発表後、約半数は弊社が進路相談を継続し、修了生の就職相談に対応している。修了生は各自順調に自分の道を歩みだしている。</p> <p>3) 産官学の連携から生まれた人材育成</p>

産学官が一体になり実施委員会を立ち上げ、そして分科会が実行部隊となり、教育プログラムの開発から実証講座の応募・実施・成果発表までを振り返ると初期の目的が果たされたものとする。受講生の資格取得と卒業研究を通じ、短期に効率的に指導できたのは、受講生の意欲の高さもさることながら、「産・学・官」の総合的な指導によるところが大きい。勿論、ケアマインドの習得のための指導を基盤に据え、現場の第一線で活躍されている方々の生の声を聴きながら、受講生一人一人がホームヘルパー2級取得を目指し、講義のみならず実際の現場にて人とふれあう「体験学習」を行ったことも大きな要因である。特筆すべきは、今回の講座に対し、行政・商工関係者・福祉関係者等各位の総合的な指導や体験学習の場の提供など、絶大なるご支援とご鞭撻を頂いたことである。まさに「産・学・官」一体となった《人材育成》に取り組む事が出来た事と思う。

振り返ってみると、応募数の少なさや合格者の辞退など、若者の介護に対する受講意欲は依然低い。また、子育て中の母にとって、日曜日が休めない職場は敬遠せざる得ない状況がある。応募数を増やす改善点としては、短期間の講座を数回分ける方法が若者に取って学びやすく応募数が増えるかも知れない。介護事業所の就職については、少しずつではあるが、パート扱いであれば、日曜日休日のところが増えてきている。働き手と事業主のマッチングの努力が改善に向かうことに期待している。

③次年度以降における課題・展開

次年度以降における取り組みとしては、これからも人材育成を通じ、若者が将来の目標を持ち、再就職や起業家また新たに進学を目指す場を提供し、社会に貢献できる人を育てることは使命だと感じている。急速な経済環境悪化の中で、再就職を考えると厚生労働省の薦めるジョブカードの活用や、ICTを人材育成の基盤として、「介護」「観光」「農業」をテーマに取り組み、国の雇用施策と連携して推進して行きたい。高齢化と農業立国佐賀県の地域性を活かし、若者の雇用意識のアンマッチを学習と実習を通じた人材育成で、かなり回避できるチャンスと考えている。そのためには、地元住民・企業・団体と国・自治体が連携し、若い人が活躍できる雇用の場（事業）を創造し、地域みんなで支え、地元でしっかりと人材育成することが必要である。弊校はこれからもICTのわかる各分野のエキスパートを育てるような、教育プログラム作りにチャレンジし、他校に先駆けてモデル校となるような成果を出して行きたい。

④成果の普及

1月29日に行われた、実証講座「ケアマインドを持った若者の人材育成講座」の成果発表会では唐津ケーブルテレビジョンの取材があり、当日夕方からニュース放映された。また、成果発表会は佐賀県、佐賀県専修学校各種学校連合会、唐津市、唐津市議会、唐津商工会議所、福祉関係者、介護を学ぶ学生、報道関係者、合計約50名を前に成果発表・報告会を行った。続いて2月6日には、都城コアカレッジ（宮崎県都城市）で事業報告会を実施し、地域への振興を図った。開発した教育プログラム、発表の成果は冊子にして、発表会参加企業、関連の自治体、団体に配布する。また本講座の入校式から修了式まで、弊校のお知らせサイトや専用のブログに随時掲載し、普及につとめた。